



愛隣幼稚園.....

# 園だより

.....15. 夏休み号

## 子どもたちへの約束

光あふれる園庭、夏の到来を思わせる青空の下、今日も子どもたちの弾けるような笑顔と、歓声が響きます。“平和”がここにあると確信する瞬間です。子どもたちが生き生きと今日を生きることができる、子どもたちが未来に夢や希望をもって今日を生きることができる、個々には様々な問題や事情があっても、少なくとも今の日本はそれが可能な国です。70年前、戦争が終わり日本は平和憲法のもと、今日まで歩んできました。あの時に子どもだった人々が、切望した未来がここにはあります。

昭和37年生まれの私は、幼い頃たくさん戦争の話を聞きました。渋谷の街にもまだ傷痕軍人という方が立たれていた時代です。父から聞く学童疎開の話、いかにひどい思いをしていたかという話を何度も聞きました。畑から作物を盗んだこと、食べ物は芋ばかりだったこと。疎開先が変わる時、駅でほんの一瞬、親と小さい弟妹に会えたこと、それは奇跡のような出来事だったという話。(一度離れた家族には二度と会えないかもしれないと皆が覚悟していたのでしょ。う。)母からは町にあふれた浮浪児の話。祖母からは恐ろしい空襲の話。体が弱く徴兵されなかった祖父は、俳人でもあったことで特高警察に連れていかれた話。それから60年後、祖母は認知症になりましたが、「また、特高がくる。」と怖がっていたそうです。語り部は身近にたくさんいました。戦争は私にはとてもリアルで恐ろしいことでした。小学生の時、日本国憲法に『戦争をしない』と書かれていることを知り、とても安心しました。私たちの国は二度と同じ過ちを繰り返さない、悲しい出来事は起こらない、このことは私の未来に希望や夢があることを保障するものでした。それから40年、私は私の今日を生き生きと生きてくることができました。苦しい時にも未来に夢や希望をもって生きてくることができました。第2次世界大戦の中、一度は希望を失くした人々が、未来を生きる者たちのために『もう二度と戦はしない』と固く誓い、夢や希望のある未来を約束してくれたからです。第2次大戦が終わり70年の間、世界200ヶ国の国の中でこれまで戦争をしなかった国はたったの8ヶ国。アイスランド、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー、デンマーク、スイス、ブータン、そして日本。世界中に戦火は絶えず、平和を守り続けることがいかに困難なことであるかを思い知らされます。同時に70年間、平和を守ることができた日本という国をわたしは誇らしく思います。

平和とは・・・おなかがすいたら、だれでもごはんがたべられる  
いやなことはいやだって、ひとりでもいけんがはいえる  
おもいきり あそべる  
あさまでぐっすりねむれる

絵本<へいわってどんなこと>(浜田桂子作)

「平和」とはじつに当たり前のことなのです。だから、私たちはこれが悲しい子ども時代をきた昔の子どもたちが切望していたことだということ、その時代の大人たちが約束し守り続けてくれた未来であることを簡単に忘れてしまうのです。親であり保育者である私は、今日を共に生きる子どもたちにも、この当たり前の「平和」が未来も続く約束しなければならないと思っています。『もう二度と戦はしない』のです。この子らが誰かを殺すことも、誰かに殺されることもあってはならない、武器や暴力によって「平和」は実現されないと、戦後70年の夏にもう一度心に刻みます。